

マイスター直伝！ 「心電図」が「臨床」とつながる本

松永圭司(著)

東京女子医科大学病院循環器内科

松井優子

波形越しに病態をイメージし、 患者さんを診る！本

『マイスター直伝！ 「心電図」が「臨床」とつながる本』を開くと、その語り口の心地良さと読み手への思いやり、多視点からの解説に一気に引き込まれた。これはよくある心電図入門書ではない。暗記ではなく病態や患者さんをイメージして臨床に生かすこと、初学者が挫折せず心電図の面白さに気付けることを追求して設計された神本だ。

心電図本が数多く出版される今日、著者の松永先生は其中でも明らかに際立つ存在だ。(1)国家試験・検定に精通するマイスター、(2)不整脈を日常的に扱う循環器内科医、(3)健診から心不全、生活習慣病や遺伝性疾患まで幅広く診る臨床医、(4)初学者向け心電図学習コミュニティを10年近く無償で続ける教育者(菩薩か?)。「顔いくつあるの?」レベルの多角的な視点とともに、初学者の悩みから上級者の深みまでも知り尽くしている。

だからこそ本書では、「試験問題あるある」から「一枚の心電図をどう臨床に生かすか」までが軽やかにつながり、さらに読み進めても一切「目滑り」しない。私が心電図を学び始めた頃、細かい判読基準(○誘導で○mm以上……)に幾度も挫折してきたが、この本にはその「覚えなくちゃいけないのに……」のストレスがない。まるで小説の文庫本を読むようにすらすら読めて、最後のページになってから「えっ、もう終わり?」と気付くほど。随所に身近な例え話や、QRコードから再生できるアニメーション動画を散りばめて、これでもかというほど理解を後押ししてくる。これは多くの初学者が苦手意識を持ちやすいポイントを熟知し、細かい数字や基準ではなく、解剖・病態を想像できる説明と構造を徹底して作りこむ松永先生の本だからこそ、さらに本書の魅力は、

単なる“わかりやすさ”では終わらない。優しい語り口にほっとしていると、突然「この心電図は肥満傾向の若い男性で、呼吸のリズムは……」とシャーロック・ホームズ級の推理が飛んでくる。急だ。しかし置いていかれる訳でも焦る訳でもなく、「心電図ってそこまで読めるのか!」と純粋なワクワクにつながる。また、「頻拍を診るときは、病棟患者さんがトイレでいきんでいる時のモニターがおすすめ」というリアルなtipsがさらっと出てくるあたりも最高で、これは日常の診療を丁寧に積み重ね、患者さんを診察してきた医師でなければ出てこないひと言だ。こんなぼろりと深い観察が読者の背中を押し、「明日はもっとモニターを見てみよう」と思わせるのだ。

この本は心電図に触れる全ての人に新しい刺激を与えてくれる。心電図が苦手な人には“面白さの入口”として、少し読み慣れた人には“具体的な想像の仕方”として、さらには、“臨床へつなぐ思考”や“教育者としての視点”としても響くだろう。個人的には、問題集を解くうちに「細かい所見が読めないダメ?」「正解できないと意味ない?」と焦りを感じ始めている人にこそ読んでほしい。心電図は点数のためではなく、患者さんの未来のためにある——この本はその当たり前を温かく思い出させてくれる。

そして松永先生、次回作も早急にお願いします。



●A5/頁168/2025年
定価: 3,300円
(本体3,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-06244-2]
医学書院 刊